

宗良親王千首

夜螢

五月やみ晴間ありとはみえねども
雲ゐのほしと飛ぶ螢かな

橋螢

八はしのくもでもおのが思ひとや
もえて螢の飛びわたるらん

水上螢

行く水のあはれきえせぬ思ひゆる
よるはみだれて飛ぶ螢かな

池蛩

さても猶消えぬ思ひにもえわびて
いく田の池に飛ぶ蛩かな

江蛩

五月やみ難波入江にすむあまの
からぬ蘆火は蛩なりけり

沢蛩

やがて又ひかりみえさす蛩かな
さは辺の草やしげりあふらん

浦蛩

風かよぶつらのあしがきこよひより
秋を間ぢかく飛ぶ蛩かな

草蛭

まだきよりつゆもみだれて秋なるは
庭の薄の蛭なりけり

蛭似露

分けゆけば袖にみだるる草の露も
ぬれぬよはの蛭なるらん

蛭似玉

難波江にもゆるほたるの光をも
けたずて玉とよする波かな